

成蹊大学

成蹊大学は、受験生一人ひとりの努力を最大限に活かすことができるようさまざまな選抜方式を採用している。一般選抜の7つの方式と総合型選抜のAOマルデス入試、学校推薦型選抜(指定校)にて入学者選抜を実施。学力の3要素を多面的・総合的に評価することをめざす。

多様な一般選抜方式
国公立大学志願者に配慮

一般選抜では、「3教科型学部個別入試(A方式)」、「2教科型全学部統一入試(E方式)」、「2教科型グローバル教育プログラム統一入試(G方式)」、「共通テスト利用3教科型入試(C方式)」、「共通テスト利用4教科6科目型奨学金付入試(S方式)」、「共通テスト・独自併用5科目型国公立併願アシスト入試(P方式)」、「共通テスト・独自併用5科目型多面評価入試(M方式)」の7つの方式を実施する。

このうち、A方式、E方式、G方式は独自試験の得点を利用した入試。C方式、S方式は大学入学共通テストの得点を利用した入試。P方式、M方式は大学入学共通テストの得点と独自試験の得点を併用した入試となる。また、G方式では、英語外部試験のスコアを利用。独自試験(E方式と共通)の得点に、英語外部試験のスコアを換算した得点と、提出書類を段階評価した得点を加算し、合否を判定する。

S方式、P方式は出願締切日が大学入学共通テスト後のため、自己採点を行った後に出願ができることが大きなメリットだ。さらにM方式では国公立大学前期日程試験後にも出願が可能となっている。また、S方式、P方式の入学手続締切日は国公立大学前期合格発表後となり、M方式の入学手続締切日は国公立大学後期合格発表と重なる。国公立大学を志望する受験生に配慮された方式となっているのが特徴だ。

「AOマルデス入試」にて
多様な個性と新しい力を求める

成蹊大学では創立より少人数教育を重んじ、学生一人ひとりの個性と自由を尊重しながら人間味にあふれる知性を育てる教育方針を貫いてきた。この理想をさらに追求し、一般選抜でははかりきれない能力や資質を評価するために総合型選抜「AOマルデス入試」を行い、これからの時代に対応しうる多様な個性と新しい力を求める。

今後も学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、各学部が課す審査により一定の学力を担保した上で、出願書類に加えて、課題レポートや面接、プレゼンテーション、討論など多様な評価方法を活用した入学者選抜の取り組みを拡充する。ただし、総合型選抜において、大学入学共通テストを利用する予定はない。

全学部ともに指定校制で
学校推薦型選抜を行う

学校推薦型選抜は、成蹊大学に入学を希望する生徒で、学業・人物ともに優秀かつ入学後の成果が大いに期待できる者を、高等学校長または中等教育学校長の推薦により入学を許可する選抜方式。全学部ともに指定校制で実施する。指定校の選定基準は学部によって異なるが、過去数年間の入学者数、在学生の成績などを勘案して決定する方針。推薦入学基準も学部によって異なるが、高校での成績および人物ともに優秀な高校生に限られる。

INFORMATION

新しい理工学部は、1学科5専攻へ

2022年4月より、専攻分野を深く、融合分野を広く、学べる理工学科の1学科に改組し、学問分野を明確にした5つの専攻(データ数理専攻/コンピュータ科学専攻/機械システム専攻/電気電子専攻/応用化学専攻)を設置。ICT活用と専門性を駆使して社会課題に果敢に取り組む「新しい理系」を養成します。



アドミッションセンター長
文学部 教授
権田 建二

期待する受験生像

受験生に期待するのは、人文・社会・自然のさまざまな学問分野への旺盛な好奇心と大学で学んだ知識を外部に発信し、社会に還元したいという意欲です。成蹊大学の魅力のひとつは、全ての学生がワンキャンパスで学ぶという点です。そのような場に、さまざまな背景を持った学生が集い、学問の垣根を越えて、お互いの個性を尊重しながら、ともに課題発見・解決に取り組み、未知なるものを自発的に学び、吸収していく。これが、私が願う成蹊大生の姿です。そのような積極的な学びの姿勢に共鳴する人にぜひ、受験してほしいと思います。